

としょかんつうしん 図書館通信

令和 8 年 2 月

石川県立盲学校図書室

2 月号

こんげつ きゅうしょく 今月のおはなし給食

てんじ
点字あり

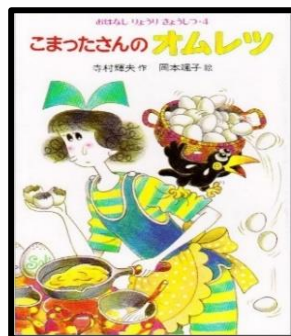
がつ か もく
2 月 5 日 (木)

『こまったさんのオムレツ』

きゅうしょく
給食メニュー

「こまったさんのオムレツ」

オムレツ島^{しま}にやってきたこまったさん。上手^{じょうず}にオムレツが^{つく}作れませ
ん。周り^{まわ}で作^{つく}っているほかの^{ひと}人のオムレツはほうれん草^{そう}やトマト、
じゃがいもを入れた^{おい}美味しそうなオムレツでした。給食^{きゅうしょく}では、話^わに
合わせた^{くたくさん}具沢山^{どうじょう}なオムレツが登場^{とうじょう}しました。



がつ にち きん
2 月 13 日 (金)

『はらぺこあおむし』

きゅうしょく
給食メニュー「カレーピラフウインナーのせ」

「ピクルス^{ひょう}風^{ふう}サラダ」「チョコレートケーキ」

給食^{きゅうしょく}では、あおむしが^た食べた^{なか}ものの中から、ソーセージ(ウインナ
ー)とピクルス、チーズ、チョコレートケーキが^で出てきました。たく
さん^た食べてふと^たちよにな^たったあおむしは、さなぎ^{さなぎ}になって、最後^{さいご}
は^{えほん}うつくしいちようちよになるベストセラー絵本^{えほん}です。



すみでん
墨点あり

せつぶん 節分

りっしゅん ぜんじつ がつ か
立春の前日(2月3日ごろ)

せつぶん
節分ってなあに？

せつぶん きせつ わ いみほんらい
節分は「季節の分かれめ」という意味で、本来は
りっしゅん りっか りっしゅう りっとう ぜんじつ ねん
立春、立夏、立秋、立冬の前日のことをいうので年に4
かい
回あります。でも今は、いま りっしゅん ぜんじつ
立春の前日だけをさすようになっ
ています。これは、きゅうれき ねん はる はじ りっしゅん
旧暦では1年が春から始まり、立春は
しょうがつ おな だいじ ひ りっしゅんまえ せつぶん とし
正月と同じくらい大事な日なので、立春前の節分は、年
のわかれめをかねたとくべつ ひ
特別な日とされたからです。

おに
どうして鬼をやっつけるの？

せつぶん お はら おに じゃき ふゆ かんき しょうちょう ひと
節分で追い払う鬼は、邪気や冬の寒気の象徴です。人
ちから
の力ではどうにもならないさいがい やまい おに
災害や病などは鬼のしわざと
されたため、しんねん こうふく ねが せつぶん おに お はら
新年の幸福を願い、節分に鬼を追い払うよ
うになりました。

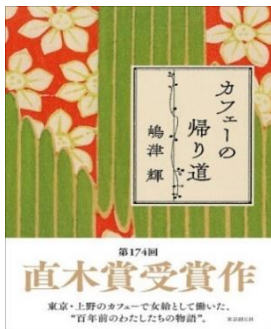
わるもの おに にほん おに はなし
すっかり悪者の鬼ですが、日本にはよい鬼の話もあり
ます。にほん ころい おに ひとびと ほんざい おお
日本古来の鬼は人々にたよりにされる存在が多い
からです。

おに わるもの まめ ちゅうごく
鬼が悪者になったのは、豆まきのルーツである中国
でんらい ついな おに ゆらい
伝来の「追儺」(鬼やらい)に由来するといわれていま
す。そして、おに でい きもん うしとら ほうとう
鬼が出入りする「鬼門」が丑寅(北東)の
ほうがく おに すがた あらわ
方角にあるとされているため、鬼の姿をウシとトラで表
すようになりました。

がつ か はっぴょう なおきしょう あくたがわしょう
1月14日発表 直木賞・芥川賞

なおきしょう
直木賞

「カフェー
 の帰り道」



東京・上野の片隅にある、あまり流行っていない「カフェー西行」。食堂や喫茶も兼ねた近隣住民の憩いの場には、客をもてなす個性豊かな女給がいた。竹久夢二風の化粧で注目を集めるタイ子、小説修業が上手いかず焦るセイ、嘘つきだが面倒見のいい美登里を、大胆な嘘で驚かせる年上の新米・園子。彼女たちは「西行」で朗らかに働き、それぞれの道を見つけて去って行ったが…。大正から昭和にかけて、女給として働いた“百年前のわたしたちの物語”。

あくたがわしょう
芥川賞

「時の家」



青年は描く。その家の床を、柱を、天井を、タイルを、壁を、そこに刻まれた記憶を。目を凝らせば無数の細部が浮かび、手をかざせば塗り重ねられた厚みが胸を突く。幾層にも重なる存在の名残りを愛おしむように編み上げた、新鋭による飛躍作。

あくたがわしょう
芥川賞

「叫び」



早野ひかるは「先生」に打ちのめされ、銅鐸と土地の来歴を学び始める。ここではかつて罌粟栽培と阿片製造が盛んで、満州に渡って「陛下への花束」を編み、紀元2600年記念万博を楽しみにしていた青年がいた。いつしか昭和と令和はつながり、封印されていた声が溢れ出す。大阪と大陸で響き合う夢とロマン、恋愛政治小説。

売りたい本
いちばん！
全国書店員が選んだ
2026年本屋大賞

2026年ノミネート作決定！ 本屋大賞



Supported by **NOLTY** 手帳ブランドNOLTY[ノルティ]は本屋大賞を応援しています。

ぜんこく しょてんいん
全国の書店員

いちばん
さんの一番の

ぼん
おすすめ本

なか
は、この中の

どれになるの

でしょうか。き

たいしょう
になる大賞

さくひん がつ
作品は、4月

か はっぴょう
9日発表！

あけぼし みなと
『暁星』 湊 かなえ

せ お
『ありか』 瀬尾 まいこ

あ さい
『イン・ザ・メガチャーチ』 朝井 リョウ

うしな かお さくらだ ともや
『失われた貌』 櫻田 智也

しょほうせん なつかわ そうすけ
『エピクロスの処方箋』 夏川 草介

ころ や えいぎょうじゅつ のみや ゆう
『殺し屋の営業術』 野宮 有

いさか こうたろう
『さよならジャバウォック』 伊坂 幸太郎

じゅくし さとう しょうご
『熟柿』 佐藤 正午

たんていこいし こい もり
『探偵小石は恋しない』 森 バジル

むらやま ゆか
『PRIZE—プライズ—』 村山 由佳